



写真：
文書館書庫竣工式 2021.3.2
原田学長挨拶

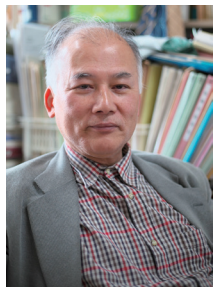
館長挨拶

WELCOME TO THE 2020 KUMAMOTO UNIVERSITY ARCHIVES NEWSLETTER

この度、熊本大学文書館の年度報告書を定型的に発行することいたしました。何よりも、皆様方に本学の文書館がどのような活動をしているのか、しかもその活動は実は有意義な活動であるのだということを十分に知っていただきたく、試行錯誤的ではありますが開始してみることにいたしました。

「試行錯誤的に」とは言いますが、それはいい加減な気持ちからなどであろう筈ありません。文書館を起動させ、円滑に運営していくために協力を賜ってきた先生方に対しまして館長として感謝しております。それぞれご挨拶を頂戴しておりますのでご一読下さい(6頁)。

それ以上に、文書館の行事の計画や実施など運営全般に亘って文字通り粉骨砕身して頂いている特任助教の香室結美先生に対しまして、文書館長といたしま

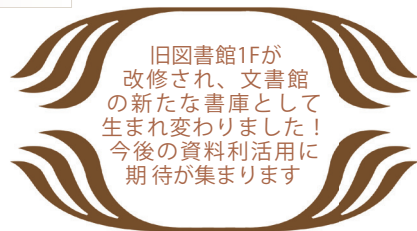


して、この場をお借りして深甚なる謝意を表明しておきたく存じます。

文書館は、特筆すべき活動といたしまして、<水俣病>関係資料、免田事件関係資料(免田栄氏は昨年12月5日に95歳で亡くなりました)、ハンセン病関係資料等の収集、管理及び公開に力を注いでおります。いずれも熊本を中心とした地域に関連する問題及びその資料を扱っております。もちろん本学の歴史に関連する様々な記録や資料も取り扱っております。こうした業務を遂行するに当たりましては、市民研究員(<水俣病>事件関係:5名、免田事件関係:2名)のご協力を得ております。ここに謝意を表明いたします。

文書館の全容と各年度の重要事項につきましては、ホームページ上にて随時更新されてゆく「NEWS&TOPICS」及び「活動報告」にてご確認頂けます。

文書館長 山田 秀
(大学院人文社会科学部 教授
熊本大学附属図書館長)



CONTENTS

- P1 館長挨拶
- P2 ~ 3 所蔵資料紹介
- P4 資料寄贈受入れ
チッソ水俣病関西訴訟関係資料
- P5 学内ワークスタディ・学生アルバイト
- P6 文書館併任教員紹介
- P7 オンライン展・企画展
- P8 文書館の活動・奥付

主な所蔵資料

大学史

熊本総合大学期成会資料 (2,050 点)
熊本大学 30 年史編集室資料 (1,031 点)
熊本大学応援団資料 (9 点)
熊本高等工業学校採鉱冶金学科関係資料 (229 点)
熊本大学医学部附属病院移管資料 (49 点)
山崎正董関係資料 (59 点)
福田昇八資料 (186 点)
岳中典男資料 (164 点) 他

熊本地域

末吉駿一コレクション (3,957 点)
安永落子関係資料 (120 点)
熊本地域文化財・遺跡関係資料 (179 点)

水俣病

水俣病研究会資料 (255 点)
※ 2018 年度末時点
岡本達明資料 (3,546 点)
※ 2020 年度末時点)
衛藤光明資料 (98 点)
甲斐文朗資料 (8 点)
熊本大学大学院生命科学研究所細胞病理学分野資料 (252 点)
丸山定巳資料 (約 6,000 点)
徳臣晴比古資料 (214 点)
チッソ水俣病関西訴訟関係資料 (公開準備中) 他

免田事件

免田栄資料 (約 550 点)

所蔵資料紹介



大学史資料 熊本総合大学期成会資料 (2,050点)

1947(昭和22)年に設置された「熊本総合大学期成会」に関する資料。熊本大学設置の道筋を示すものと、発足した熊本大学の設備充実に関するものに大別される。

期成会は、1949(昭和24)年、熊本大学が戦後の学制改革により在熊の官立学校(第五高等学校・熊本医科大学・熊本工業専門学校・熊本薬学専門学校・熊本師範学校・熊本青年師範学校)を母体に設置された際、熊本県及び県内市町村関係者と前身諸学校の代表者により立ち上げられ、官民一体となり計画策定、陳情、募金集めと幅広く活動した。

本学の設置認可申請に関して在海外熊本県人会へ寄付を呼びかけた際の手紙等の貴重資料が含まれる。(写真2枚: 資料ID 200804010199-2, 200804010199-4)



水俣病関係資料 岡本達明資料 (3,546点) ※2020年度末時点

岡本達明(1935～)は東京生まれ、1957年に東京大学法学部を卒業後、新日本窒素肥料株式会社入社。1964年にチッソ水俣工場第一組合専従執行委員として水俣配属、1970～78年同組合委員長。工場労働者やメチル水銀の被害を受けた人々を含む水俣の地元民から水俣と工場について学び、聞き取り調査を行った。

1990年チッソ退社後、『聞書水俣民衆史』『水俣病の民衆史』『水俣病の科学』を出版。編著作に記された詳細な聞書は他に類を見ず、明治期以来の水俣の人々の暮らしや事件史の詳細、チッソ水俣工場の実態を知るための必携書である。

本資料群は岡本氏編著作の一次資料として用いられた聞き取り録音カセットテープ、書き起こし、調査ノート、チッソ工場関係の機関紙等から成る。岡本氏自身による資料保存と整理分類を経て、ほぼ欠損なくこれらを本館に所蔵することができた。

【作業内容】

カセットテープ・フラットファイル・ノート・雑誌のクリーニング、修復、デジタル化、目録作成
期間: 2017年9月～2021年3月
点数: カセットテープの修復 538点
カセットテープのデジタル化 2,088点
フラットファイル・ノート・機関紙のデジタル化 1,474点(簿冊等 96点) 目録作成 3,546点

【カセットテープのデジタル化と修復】

半数以上のテープが録音当時から40年以上経過しており、経年劣化によるテープの切れや回転不良などが多く見られました。他にも、磁気テープとリーダーテープの接合部分が剥がれたものや、テープが軸から抜けてしまったもの、再生中に絡まって回転が止まってしまうもの、テープ同士が貼りついてしまったものなど状態は様々でした。

長い時間をかけて聞き取りが行われてきたこと、長年保管されてきた聞き取りの貴重な一次資料を次世代へつなぐことの重要性を実感するデジタル化・修復作業でした。(中山)

【資料紹介】

カセットテープ 資料ID: MD02-B01-011-1~6

テープ起こし 資料ID: MD02-B02-003-6~7

収録書籍: 『水俣病の民衆史 第5巻 補償金時代1973-2003』
2015, 岡本達明著, 日本評論社, pp. 264-282, pp. 306-312

話し手はT.S.氏、聞き手は岡本達明氏。2000年と2003年の2回にわたって聞き取りが行われた。T.S.氏は祖父、父、母が水俣病と認定されており、自身にもメチル水銀中毒の症状があった。

「水俣病」が「奇病」といわれた時代を生き抜いてきた自身の半生や、家族のことなどが語られている。岡本氏によるテープ起こしには、話し手の笑い声や岡本氏の発言・相槌なども詳細に記されている。本では編集によりカットされている部分も多い。肉声だからこそ感じ取ることができるT.S.氏の話し上手な性格や、岡本氏との親しい様子が伺えるテープである。(中山)

【寄贈受入れ・作業協力】

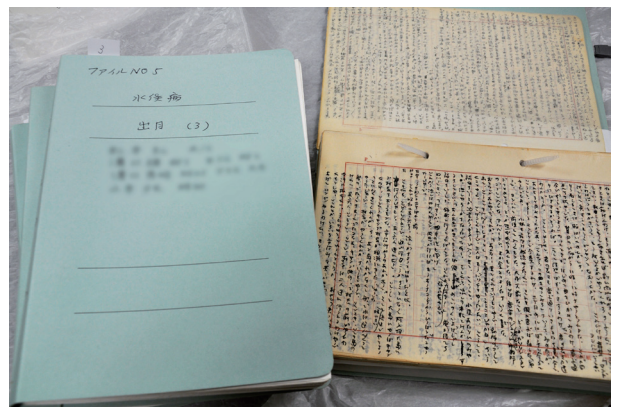
「水俣病事件の記憶術と(脱)アーカイヴ構築—未来の人文社会科学的综合研究に向けて」(科研基盤A 16H01970 代表者: 慶田勝彦), 作業者 中山智尋

熊本地域関係資料 末吉駿一コレクション (3, 957点)

末吉駿一(1929~)は兵庫県生まれ、季刊誌「くまとの旅」元編集長。阿蘇に魅かれ熊本市に移住し、1976(昭和51)年に株式会社マインドを設立、代表取締役社長を務めた(~2011, 平成23)。

本資料群は、熊本を中心とした地域の文化、歴史、景観を観光の立場から長年研究し情報発信してきた末吉氏の地域愛に溢れた生涯の仕事を一堂に集めたコレクションである。

県内各地を地元目線で紹介した「くまとの旅」やフリーペーパーの先駆けとなった家庭情報誌「月刊ホーム・ホーム」等の雑誌、熊本関連図書、取材メモ、県内各地のパフレットや資料が含まれ、地元民も知らない熊本の魅力を大いに発掘することができる。(写真上: 附属図書館コーナーにて末吉氏, 写真下: 資料ID KL01-01129, KL01-01479)



写真上: 岡本氏著作と収録カセットテープ

写真下: 岡本氏による手書きテープ起こしファイル



資料寄贈受入れ



(写真左：大阪電気通信大学 調査研究会資料室, 写真右：山田文書館長 挨拶)

チ ッソ水俣病関西訴訟関係資料寄贈に関する覚書調印式及び報道機関取材を、2020年9月15日(火)午後には執り行いました。

本年度、チッソ水俣病関西訴訟資料調査研究会様とチッソ水俣病関西訴訟を支える会様より「チッソ水俣病関西訴訟関係資料」の寄贈申請を頂き、同資料を本館で受入れる運びとなりました。大阪電気通信大学と熊本大学でのオンライン覚書調印式をもって、主な手続きを完

了しました。両会の皆様とこれまで資料を保管されてきた大阪電気通信大学長はじめ皆さま、ご協力頂いた関係者の皆さまに謹んで御礼申し上げます。

※ 資料は2021年3月11日、大阪電気通信大学より本館へ移管完了しました

本資料群は、1982年大阪地裁へ提起された国賠訴訟「チッソ水俣病関西訴訟」の原告（不知火海周辺地域からの移住者）、弁護士、医師団、チッソ水俣病関西訴訟を支える会、チッソ水俣病関西訴訟資料調査研究会の横田憲一氏らを中心に作成・収集・保管され、訴訟・調査研究・著作執筆に用いられてきたものです。横田氏もメンバーであった支える会が作成・収集・保管してきた関西訴訟関係資料が主であり、関連する運動団体関係資料も含まれます。裁判資料、裁判関係の参考資料、横田氏著『水俣病の病態に迫る』（2017 随想舎）執筆に用いられた参考文献や作成資料、雑誌・書籍、ビラ・チラシ、のぼり等のモノがあります。

目録化されている資料（記述レベル：簿冊）が2500点程、文献資料が

2000~3000点程、そのほか未整理資料が150箱程と考えられます。

本館ではウェブ公開の準備ができた目録から順に公開し、資料を一般に供します（ご来館頂く形での利用になります、資料複写郵送や電子媒体での送付は行っておりません）。まずは整理・目録公開を進め、企画展の開催や、水俣病研究会と連携しての資料集作成などを計画していきたいです。

【調印式出席者】

●チッソ水俣病関西訴訟資料調査研究会代表 小田 康德 /
メンバー 小田 直寿 その他1名

●チッソ水俣病関西訴訟を支える会代表 庄野 久子

●大阪電気通信大学
大阪電気通信大学長 大石 利光 /
共通教育機構人間科学教育研究センター 教授 平沼 博将

●熊本大学文書館
館長 山田 秀 / 併任教員(水俣病関係資料担当) 慶田 勝彦 / 特任助教 香室 結美



(写真上2枚：覚書調印式の様子)

学内ワークスタディ

熊本大学では、本学学生の職業意識をはぐくみながら経済支援を図る学内ワークスタディ制度が実施されています。本年度、3名の学生が文書館で業務を実施しました。

【業務内容】

- ・資料クリーニング
- ・資料概要の記録
- ・資料目録作成
- ・資料移動
- ・写真フィルムデジタル化
- ・セミナー等の書き起こし 他

【実施後アンケート】

私は今まで、一定期間継続してアルバイトをしたことがありませんでした。今回文書館における業務に従事したことで、「働くこと」を学びました。また、様々な仕事を与えていただいたので、常に新鮮な気持ちで、楽しく業務に臨むことができました。貴重な経験をありがとうございました。
(法学部・3年 錦織)

まずは資料の扱い方について学びました。資料を丁寧に扱うだけでなく正しく保管する方法を知ることができたと思います。そして保管した資料にたくさんの意味が込められていることを実感し、これからは資料を扱う際にはその気持ちを忘れずにありたいと思うようになりました。
(法学部・4年 矢崎)

業務を通じて、資料のクリーニングや保存について学びました。資料は作成された年代が幅広くとても驚きました。図書館や文書館で様々な情報をたくさん得ることができるシステムは、資料が一つ一つ人の手によって丁寧に管理されてこそ成り立つのだと実感しました。知りたいことを調べることができる感謝を忘れず、今後も積極的に図書館や文書館を利用したいです。
(工学部・4年 杉田)



学生アルバイト

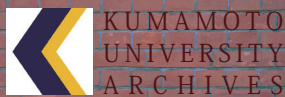
文書館では学生アルバイトの皆さんにも業務をお手伝い頂いています。

【アルバイト 感想】

2020年6月から文書館で図書の整理や資料のクリーニング・リスト化といった仕事に携わっています。学芸員を志望していることもあり、資料に実際に触れたり保存のための作業を行ったりする経験は非常に貴重なものとなりました。

文書館で行った仕事は、ピンセットを駆使するような繊細なものからひたすらパソコンと向き合うもの、図書や段ボールの運搬といった体力を消費するものまで幅広く、文書の保存・管理・研究の大変さを知るとともに、そうした作業の集大成によって、我々は文書を利用し学ぶことができるのだと実感することができました。私が携わった資料も誰かの研究の役に立つのだと思うと、とてもうれしく感じます。文書館での貴重な経験を、今後の自身の研究や仕事に活かしていきたいです。

(文学部・4年 鈴木/基盤研究(A)
16H01970 雇用 研究代表者:慶田勝彦)



文書館の仕事

本館では、資料整理（資料調査・概要把握～分類～目録作成～保管）、資料目録のWEB公開、来館者対応（閲覧・複写等）、寄贈資料の受入れ、事務手続きを日常業務として行っています。その他、企画展・イベント・研究会の開催やニューズレターの発行等を行っています。

個人的な研究としては、本年度より「水俣病」関係写真の歴史性について人類学およびアーカイブズ分野で調査と考察に取り組んでいます。具体的な作業として、写真家・故塩田武史さんの妻・弘美さんと協同で、塩田武史さんのネガフィルム保存・デジタル化（コンタクトシート作成）・キャプション作成に取り組んでいます。これらのデータからフィルムデータベースを構築し、本館PCで公開する予定です。塩田さんは、ご家族と共に15年間水俣に住み、人びとのありのままの姿を撮影しようとしていました。フィルムに収められた多くのショットが写真集未収録であり、「水俣病」にとどまらない、地域とそこで生きる人びとの多角的な姿を知ることができます。（特別研究員/特任助教 香室結美）

文書館併任教員紹介

今

和2年度が最終年度となる「水俣病事件の記憶術と(脱)アーカイヴ構築—未来の人文社会科学的総合研究に向けて」(科研基盤A代表者: 慶田勝彦)の主要プロジェクトのひとつに本学文書館との連携を組み込み、「水俣病」事件アーカイブズの構築を併任教員として推進しています。

主に、本学附属図書館に設置されていた学術資料調査研究推進室「水俣病部門」(世話役: 本学名誉教授・富樫貞夫と故丸山定巳)が収集・管理してきた資料を文書館に移管し、永続性のある資料保存と公共性の高い資料活用の促進を目指しています。新旧の文書館長と学長がプロジェクトに理解を示してくれたことや水俣市立水俣病資料館から依頼があった受託研究で力をつけた若手研究者の活躍もあって、文書館との連携プロジェクトは期待以上に進展しました。これは推進室の資料だけではなく『水俣病の民衆史』(全6

巻)他重要な著作を刊行している岡本達明氏の所蔵資料やチツソ水俣病関西訴訟関係資料がほぼ全て文書館に寄贈されることを可能にした点に示されています。

私の役目は終わりつつありますが、単一の問題(シングル・イシュー)には還元できない複雑さと多元性を特徴とし、その全体像は常に「X」であるしかないようなく「水俣病」事件に関する膨大な資料の中には、聞かれることを待ち侘びている多様な未知の声が含まれていると感じます。丹念に資料を掘り、未知の声を聞き続けようとする意志が途切れないことを祈るばかりです。

水俣病関係資料担当
大学院人文社会科学
研究部 教授
慶田勝彦



熊

本学文書館が資料収集・整理・保存・公開を行っているテーマの一つである、免田事件、ハンセン病が、熊本に来てからの研究に深く関わっています。

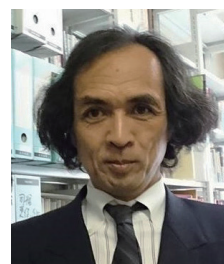
九州大学法学部助手を務めていた1996年に菊池恵楓園の入所者の方から、いわゆる菊池事件が、ハンセン病差別と深いかわりを持つ冤罪事件であることを知り、この問題にも取り組まねばという問題意識を持つことになりました。さらに2002年に水俣で免田栄さんから、再審で無罪となったが、確定有罪判決は破棄されておらず、真の意味での雪冤は果たされていないというお話を拝聴したことから、刑事再審制度の不備も頭から離れないテーマとなりました。

2008年4月に熊本大学法学部に赴任して以来、菊池事件を通してハンセン病差別と冤罪との深い関係を知ることになり、この問題に取り組むことになりました。また、熊本県の「無ら

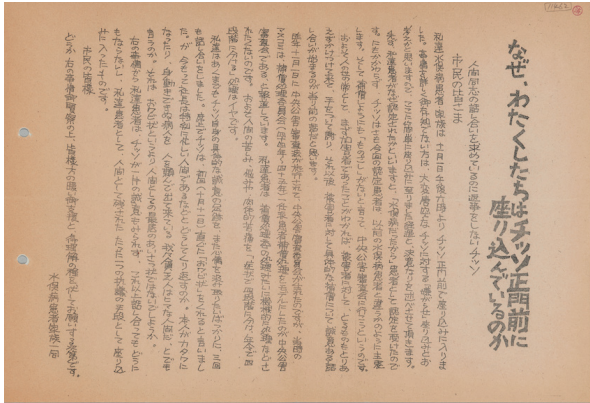
い県運動」検証委員会における検証作業に関わる中で、ハンセン病差別の根深さを知り、この差別問題への取り組みの必要性をますます感じるようになりました。

このような状況で、文書館の併任教員をお引き受けすることになり、今に至っております。というわけで、冤罪被害の防止という観点から免田事件に関して、免田栄さんからご寄贈いただいた資料の整理が終わった段階で、ご関心をお持ちの方々いつでも学ぶことができるように、適切な情報発信を行うとともに、ハンセン病差別の克服に向けた資料収集・整理・保存・公開に努めていきたいと念じております。

免田事件/ハンセン病
関係資料担当
大学院人文社会科学
研究部 教授
岡田行雄



オンライン展 2020年度



「なぜ、わたくしたちはチッソ正門前に座り込んでいるのか
人間同志の話し合いを求めているのに返事をしないチッソ」

[1971. 11] 水俣病患者家族一同

公害認定後、被害者と具体的な補償の話し合いをしようとならないチッソに対し座り込み抗議を行う患者によるピラ。「私達患者は、チッソが一片の誠意もみられず、これ以上話し合ってもどうにもならないし、私達患者として、人間として残されたたった一つの抗議の手段として座り込みに入ったものです。」(資料本文)

闘争のこぼれ

石牟礼道子 苦海浄土第三部『天の魚』から読むピラ合戦

熊本市発足「水俣病を告発する会」(1969-)として自らもピラ作成に関わっていた石牟礼道子の著作『天の魚』(1974 筑摩書房)を参照し、同作に登場するピラ等資料のうち、告発する会と「ピラ合戦」に関する資料デジタル画像を中心に、本館ウェブサイトにて日本語と英語で紹介します。

患者と共に行動した告発する会には、当時の熊大生も多く参加しました。ぜひご覧ください。

1968年、「水俣病」はチッソ水俣工場から排出されたメチル水銀化合物によって引き起こされた公害病として政府から認定された。その後水俣では、責任が確定したチッソに補償を求める動きが起きた。チッソは厚生省に調停を依頼、患者家族は第三者の介入を拒む「自主交渉派」、調停に従う「一任派」、訴訟に踏み切る「訴訟派」に大きく分かれた。一任派以外の患者家族の動きは、チッソによる社会経済的支えによって生活する水俣の「一般市民」や関係組織を刺激した。各派・団体の訴えは新聞折り込みチラシ等として連日のように一般に配られ、その素早く激しい応酬は「ピラ合戦」(1971年)と呼ばれた。現在でいうインターネットやSNSを利用したことばのやり取りや、世論形成に近かったといえる。

展示資料: 水俣病研究会資料より 25点

協力: 国際人文社会科学センター・学際的研究資源アーカイブ領域

企画展 2019年度



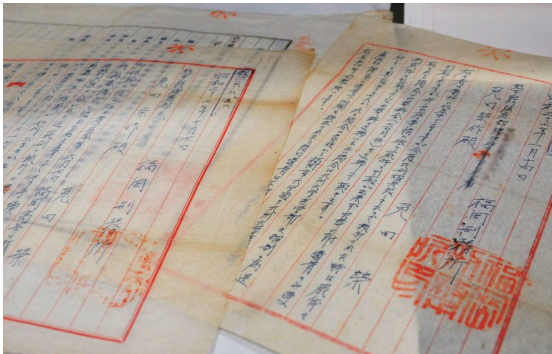
「地の塩」の記録 ～免田事件関係資料展～

2019年9月17日(火) 附属図書館中央館にて企画展オープニングイベントを開催し、61名の方々にご参加頂きました。「免田事件」とは、日本で初めて死刑囚が再審無罪になった事件です。免田栄さんは34年6カ月を獄中で過ごし、死刑判決と闘いました(1983年 無罪確定)。

本館は2019年1月に免田栄さん・玉枝さんご夫妻より旧蔵資料の寄贈を受け、資料整理に取り組んでいます。企画展では、本館市民研究員 高峰武氏・甲斐壮一氏のご協力により一次整理が終わった資料から公文書3点、葉書4点、決定書(2007年、再審請求棄却決定)1点、免田再審鑑定書集1点、荒木弁護士による報告書1点、六法全書・聖書・辞書・事典類4点の計14点を展示しました。

イベントには免田さんご夫妻をお招きし、これまでの人生についてお話を伺いました。栄さんは日本の民主主義の再考を促し、「民主国家による人権というものを国が保持していくのであれば、きちっとした筋を立てて説明を(行い)、国民一人一人が納得のいくような行政をやってほしい」、とご自身の経験から語って下さいました。資料群約550点は2021年4月頃公開予定です。ぜひご活用ください。

(写真上: 免田栄さん・玉枝さんご夫妻, 写真下: 公文書2点 1952年当時、再審請求中は死刑執行が停止されていたことを示す資料)





文書館設置～2020年度の主な活動

2016年度

04.05 文書館設置（初代館長・古島幹雄）

2017年度

11.02～11.06 写真で振り返る「熊本大学の歴史」展 開催

2018年度

05.16 広島大学文書館と業務協力に関する協定締結

06.25～06.29 広島大学文書館公文書管理実務研修参加
（特別研究員 1名）

08.27～08.31 国立公文書館 アーカイブズ研修 I 参加
（特別研究員 1名）

09.06 第1回文書館運営委員会

10.02 ホームページ公開

12.12 第2回文書館運営委員会

03.08 市民研究員2名（免田事件関係資料）委嘱状交付

2019年度

04.01 館長交代（第二代館長・山田秀）

04.01 本館サイト「所蔵資料」ページ 公開目録更新

05.20 第1回文書館運営委員会

06.13 文書館支援事業（熊本大学基金内）創設

07.25 第2回文書館運営委員会

08.05 第3回文書館運営委員会

09.11 熊本放送・熊本日日新聞社と資料利用に係る覚書締結

09.17～30 文書館企画展 「地の塩」の記録 ―免田事件
関係資料展 / 免田ご夫妻トーク 開催

09.19 本館サイト「ギャラリー」（現 デジタルアーカイブ）開設

09.25 第4回文書館運営委員会

10.01 市民研究員5名（水俣病関係資料）委嘱状交付

10.28 本館サイト「所蔵資料」ページ 公開目録更新

11.19 第5回文書館運営委員会

03.25 第6回文書館運営委員会

03.31 本館サイト「所蔵資料」ページ 公開目録更新

2020年度

04.27 第1回文書館運営委員会（書面会議）

05.22 第2回文書館運営委員会（書面会議）

06.24 第3回文書館運営委員会の開催

08.19 国立公文書館 公文書管理研修 I 参加
（特別研究員 1名）

08.27 第4回文書館運営委員会

09.15 チッソ水俣病関西訴訟関係資料の寄贈に関する覚
書調印式（オンライン）

11.12 第5回文書館運営委員会

12.07～12.08 国立公文書館 公文書管理研修 II 参加
（オンライン、特別研究員 1名）

01.29 第6回文書館運営委員会

02.22 第7回文書館運営委員会（書面会議）

03.02 文書館書庫 竣工式

03 下旬 オンライン展 闘争のことば―石牟礼道子 苦海
浄土第三部『天の魚』から読むビラ合戦 開催

03.18 第8回文書館運営委員会（書面会議）

03.31 ニュースレター創刊号 発行

03.31 本館サイト「所蔵資料」ページ 公開目録更新

組織・スタッフ

館長 山田 秀 事務補佐員 古川 洋子

併任教員 慶田 勝彦 山本 彬子

岡田 行雄

【運営委員会】

牧野 厚史

委員長 山田 秀（文書館長）

特別研究員 香室 結美

委員 慶田 勝彦（大学院人文社会科学研究所教授）

委員 春田 直紀（大学院人文社会科学研究所教授）

委員 岡田 行雄（大学院人文社会科学研究所教授）

委員 濱崎 千雅（図書館課長）

委員 井口 英樹（総務課長）

委員 香室 結美（文書館 特別研究員/ 特任助教）

熊本大学文書館 2020年度報告

ニュースレター 創刊号

発行日 2021.3.31

編集発行 熊本大学文書館

〒860-8555 熊本市中央区黒髪2丁
目39-1（南キャンパス・旧共用棟黒
髪4）

TEL.096-342-3951 FAX.096-342-3952

Email: archives@jimu.kumamoto-u.ac.jp

利用案内

開館日 月～金

休館日 土・日・祝、年末年始、夏季

一斉休業日、その他 臨時休館日

利用時間 10:00～16:30

業務 (1) 閲覧 (2) 撮影複写 (3) 貸出し
(4) レファレンス (5) 展示

※いずれも要事前連絡

※資料複製の郵送・メール送信は行って
おりません

